


令和4年度(2022年度)北海道・ハワイ州 高校生交換留学促進事業報告書

Hokkaido/Hawaii High School Student Exchange Program 2022

新 し い
自  分
始 ま る

令和5年(2023年)3月
北海道教育庁学校教育局高校教育課

Hokkaido Office of Education
Bureau of School Education
High School Education Division

はじめに

北海道教育委員会は、平成29年度（2017年度）に北海道とハワイ州の友好提携が結ばれたことを機に、両地域間における高校生の交換留学の実現に向けて同州と協議を進め、令和元年度（2019年度）、初めて、両地域の高校生を相互に派遣いたしました。令和2年（2020年）1月には、道教委とハワイ州教育局の間で教育分野に関する覚書を締結し、今後より一層、両地域間の生徒同士の交流について連携を充実・強化させていくことを約束しました。

そうした中、まさにこれからというタイミングで、新型コロナウイルス感染症の蔓延による海外との往来の制限により、対面での交流を中止せざるを得ない状況となってしまいましたが、本年度は、日本を含む各国の水際措置が大幅に緩和されたことから、感染症対策に万全を期した上で、3年ぶりに本事業を再開させることができました。

今回は、感染症の影響により、相互派遣ではなく、本道からハワイ州への生徒派遣のみの実施となりましたが、全道各地から5名の高校生がハワイ州へ約1週間留学し、限られた時間の中でも大きく成長し、本道に帰ってきました。

ここ数年、海外との交流の機会は減ってしまいましたが、徐々に人々の往来も増えており、今後は、より一層グローバル化が進行し、進学後や就職後も様々な場面で外国人と交流する機会が増えていくことが予想されます。そのような中、高校生段階で海外留学を通じて異なる習慣・価値観に触れること、外国人と意思疎通を図ること、見知らぬ土地で多くの苦楽を経験することは、何事にも代えがたいものです。

また、今回は、本事業で初めて、地域企業、個人からのふるさと納税による寄附金のご支援を財源にいたしまして、渡航費用の一部補助を実施しました。帰国後の参加生徒に対するアンケートでは、5名全員が「この経験を職業選択や進路選択に生かしたい」と回答しており、今回の留学が、今後の人生設計にも影響を与える貴重な経験となったようです。参加生徒におかれましては、本事業を契機に、本道はもちろんのこと、国内外で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりますが、短い準備期間にもかかわらず早く生徒を送り出して下さった保護者の皆様、業務多忙な中で御尽力いただいた高等学校の教職員の皆様、北海道の高校生のグローバル人材の育成に期待し、ふるさと納税によりご支援を賜りました皆様に心から感謝を申し上げます。今後も本事業が、本道とハワイ州との友好親善に寄与するとともに、本道の高校生に夢と希望を与える機会であり続けるよう努めてまいります。



令和5年（2023年）3月

北海道教育庁学校教育局高校教育課長 山城 宏 一

■留学生一覧

	学 校 名	学校所在地	学年	性別
1	北海道札幌国際情報高等学校	札幌市	2	女
2	北海道小樽潮陵高等学校	小樽市	2	男
3	北海道静内高等学校	新ひだか町	2	女
4	北海道旭川西高等学校	旭川市	2	女
5	北海道釧路湖陵高等学校	釧路市	1	女

■事業実施日程

実 施 内 容	月 日	備 考
事前研修会（オンライン）	令和4年11月11日（金）	
 本道留学生出発	令和5年1月15日（日）	ハワイ州受入校 Waipahu High School
通学・ホームステイ	1月15日（日）～22日（日）	
 本道留学生帰国	1月23日（月）	

1 生徒編

北海道・ハワイ州 高校生交換留学促進事業 報告書

北海道札幌国際情報高校 2年

私は小学生の頃、父の仕事の関係でマレーシアに住んでいました。そのことから海外に興味があり、様々な国の文化や生活の違いにも興味を持ちました。新型コロナの流行により見学旅行でハワイに行くことができなくなり残念に思っていたところ、この案内を聞いて留学に挑戦してみようと勇気を出して応募しました。

<1日目>

ハワイの空港に到着すると、ホストシスターや先生が名前の書いたウェルカムボードとレイを持って私たちを歓迎してくれました。事前にSNSでやり取りをしていたので、会えたときはとても嬉しかったです。私が行きたいと伝えていたハワイ出雲大社やアラモアナセンター、アウトレットなどに連れて行ってくれました。一緒に参拝をしてクレープやかき氷を食べました。緊張もほぐれてすぐに仲良くなり、お揃いのコスメも買うことができ嬉しかったです。その後はホストシスターのバンドの練習へ一緒に行き、メンバーにドラムやギターを教えてもらいました。夜はお母さんの妹の家で、親戚やいとこと一緒にロコモコを食べました。



日本では大人数でご飯を食べる機会がなかなかないのでとても新鮮な経験でした。

<2日目>

スクールバスで日本語クラブの生徒と一緒に Makapu'u Point Lighthouse Trail に行き、ハイキングをしました。急に雨が降ってきて焦りましたが、ハワイではよく天気が急変するということを教えてもらいました。歩いて40分程で頂上に着き、そこではハワイの自然を存分に感じることができました。その後 Koko Marina Center でランチをしました。移動中のバスでは好きな曲を教え合い、とても盛り上がりました。帰宅後は、インターナショナルマーケットプレイスでお土産やお揃いの服を買い Ko Olina Beach で一緒に夕焼けを見ました。普段見ることのできない景色



とてもきれいでした。夕食は親戚と一緒にラウラウやポイなどハワイの伝統料理をたくさん食べました。



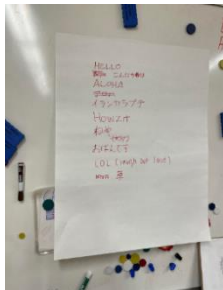
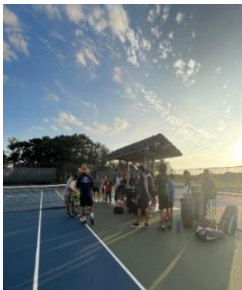
<3日目>

ワイパフ高校へ初めて登校しました。事前に作成したパワーポイントで自己紹介や学校、札幌のプレゼンをしました。校内ツアーや日本語の授業にも参加しました。日本語の授業では日本語で自己紹介をしました。なぜ日本語を学んでいるのか聞いてみると、日本のアニメが好きだからと答える人が多かったです。他に日本の制服やハワイの食べ物についても話しました。放課後には前から食べてみたかったアサイーボウルやマラサダを食べに行きました。夜にはお母さんがハワイで有名なモチコチキンという唐揚げのようなものを作ってくれました。どれも美味しかったです。



<4日目>

学校二日目は、一番楽しみにしていたウクレレや料理、化学、日本語の授業を受けました。ウクレレの授業ではペアの子に教えてもらい一緒に練習しました。料理の授業では中国の胡麻団子、gao というお餅、向日葵のクッキーのアイシングを体験しました。日本語の授業では、グループに分かれ簡単な英語を日本語やアイヌ語、ハワイ語、ピジン語で何というか教え合いました。どの授業もみんなが積極的に参加していて楽しんでいるように感じました。ハワイの学食に興味があったので、お昼にカフェテリアで学食を買って食べました。放課後はテニス部の練習に参加しました。テニスは初めてでしたがコーチに教えてもらい部員と一緒に練習しました。夕食はピザショップでカスタマイズしたピザをテイクアウトして食べました。夜にホストシスターがアプリで漢字の練習をしていたので、とても刺激になりました。



<5日目>

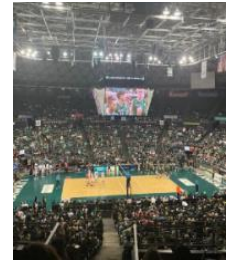
朝学校に向かう車の中で綺麗な日の出を見ることができました。二日目は数学と英語の授業を受けました。数学は私にとって難しかったです。生徒が実物投影機を使用し問題の解答をしていて、私がいつも受けている授業と少し違いました。英語の授業では正しいカンマの位置のつけ方をクイズ形式で学びました。授業中に生徒が立ち上がっても先生に注意されることなく、とても自由でした。放課後はホストシスターのテニスレッスンを見学し、夕食の韓国料理を一緒に作りました。普段から色々な国の料理を食べていると教えてくれました。愛犬にも慣れ、おもちゃでたくさん遊びました。夕食後にはお土産を買いに連れて行ってもらいました。



<6日目>

学校最終日の授業では美術で自画像を描きました。そのあとイオラ二宮殿やカメハメハ像を見学し、ハワイのハヤシ教育長を訪問しました。そしてハワイで学んだことなどを英語で報告しました。お昼には

ハワイのスパムむすびを食べました。学校へ戻り、HRと日本語の授業を受けました。日本語の授業では外で日本のじゃんけん列車やあっち向いてホイなどのゲームをしました。ハワイのゲームも教えてもらい楽しい授業でしたが、最後の授業だったのでとても悲しかったです。部活のテニスの練習では最後に円陣の掛け声を言わせてもらいました。夜にはポキ丼を食べ、ハワイ大学のバレーボールの試合を見に行きました。試合後、選手にサインをもらい写真を一緒に撮りました。日本から来たことを伝えると喜んでくれたので嬉しかったです。寝る前に一緒にパックをしたり、話をしたりしているとあっという間に時間が過ぎてしまいました。



<7日目>

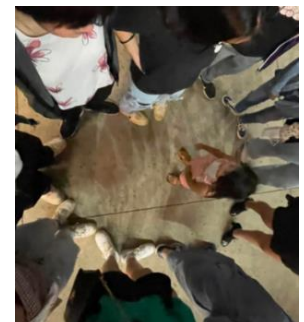
最終日は、ホストファミリーが私のしたいことを叶えてくれました。朝からワイキキビーチに行って海で泳ぎ、お昼にガーリックシュリンプやレインボーシェイプアイスを食べました。見学旅行で行く予定だったパールハーバーも見学できました。夜には留学生やホストファミリー、先生方が集まったお別れディナーでは英語で感謝の言葉を



伝えました。最後にみんなで集合写真を撮りたくさん思い出ができました。

<8日目>

空港では最後に感謝の気持ちを込めて手紙を渡しました。あまり話すことのできなかった弟がグミでできたレイをくれて嬉しかったです。再会することを約束してお別れしました。とても悲しくて涙が止まらなかったです。



<留学を通して>

ホストファミリーと過ごしていく中で、英語の間違いを恐れず声に出してみる事が一番大事だと感じました。英語力の向上以外にも異文化を認め合うことの大切さなど、実際に行かないと感ずることのできない学びがたくさんありました。また、全てが初めてづくしの毎日だったので精神面も鍛えられました。次回ホストシスターに会えたときには驚いてもらえるくらい英語が上手く話せるようになりたいと思い、帰国後は今まで以上に英語の勉強に励んでいます。この留学で学んだことを将来に活かしていきたいです。このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。私にとって一生の思い出です。

令和4年度（2022年度）北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業 研修報告書

北海道小樽潮陵高等学校 2年

【参加した理由】

私にとって今回の留学が初めての海外でした。以前から海外留学にとっても興味を持っており、この企画に応募しました。すべてが英語に囲まれている環境は英語をもっとしゃべってみたい自分にとって最適な場所であり、また自分の英語の力がどれほどあるのかを試してみたいと思っていたからです。



【ハワイでの生活】

～1日目～

ダニエル・k・イノウエ空港から出たとたん、当たり前ですが日本とかけ離れた光景に目を奪われました。まず目に入ったのは、まさにハワイをイメージするときに必ず出てくる、たくさんのヤシの木でした。その次は見た目がごつい外車がトランクに人を乗せて走っている様子に驚きました。他にも日本で見たことのない鳥が飛んでいるのを見て本当に外国に来たことを実感できました。その後はホストファミリーとの初めての出会いがありました。打ち解けるのに時間がかかると思っていたのですが、そんなことはありませんでした。ホストファミリーは車に入るなり歓迎の言葉を述べてくれたのです。そのあともホストブラザーとバレーボールをしたり家族全員で歓迎パーティをしてくれたりして空港に着く前の緊張はとっくに無くなっていました。私がこの日に一番ショックを受けたことは家のトイレがお風呂と同じ部屋にある、いわゆるユニットバスだったことです。普段個室のトイレを使っている私にとってユニットバスはホテルとかでしか見ないのでとても印象深かったのを覚えています。

～2日目～

ハイキングに行きました。北海道とは比べ物にならないほどの強い日光と暑さに耐えながら長い道のりを歩きました。その日はたまたま日本のアニメのキャラの服を着ていたのですが、それがとても良い話のタネになりました。おかげで長い道のりもあっという間に進み頂上にたどり着くことができました。

そのあとも、日本の話で大盛り上がりで、日本のアニメをたくさん知っていて本当に良かったと感じました。ハイキングが終わった後はスターバックスでコーヒーを飲んで休憩した後、ルールを教えてもらいながら、家族全員でフットボールの試合を家で見ました。私はフットボールをラグビーと似ているスポーツだと思っていましたがホストファミリーの説明を通して大きな違いがあることを知りました。例えばボールの大きさが全く違うしボールを前に投げることは禁止されていてさらに人数も違います。



～3日目～

初めてワイパフ高校に登校しました。ワイパフ高校は自分の想像していたものとは全く違うものでした。一つの校舎で成り立っているのではなく、何個も校舎があり図書館はもちろんカフェテリアや、ウェイトルームまでありました。入る手続きが終わった後、私たちはそれぞれプレゼンテーションをしました。たくさんの人の前でスピーチをしたことは何回もあったのですが、聴衆が外国の人ばかりなのと自分もすべて英語で話さなければならなかったのがマイクを持つ手が震えました。それでもやり終えた後にみんながほめてくれたのでとてもホッとしたのを今でも覚えています。

～4日目～

本格的に学校の授業を受け始めました。初めの授業はウクレレでした。とても苦戦しましたが、先生やクラスメイトの根気強い支援によって後半にはみんなに合わせて音を奏でることができるようになりました。そのあとも料理や経済学、日本語の授業を受けました。日本語の授業では、簡単な自己紹介をした後、クラスメイトの自己紹介をしました。クラスの中には日本語を四年間も勉強している人がいて日本語をスラスラと話していました。放課後にはホストファザーが買い物や海に連れて行ってくれたり、家に帰って飼い犬のブルドッグと遊んだりホストブラザーとトランプゲームをして遊びました。

～5日目～

その日の授業は数学、英語、日本語でした。数学では、問題文も全部英語だったので解くのは難しいかと思いましたが隣の子が教えてくれて、理解することができました。クラスメイトの前で答えを発表して正解すると先生がお菓子をくれました。よく周りを見回してみると授業中なのにももらったお菓子を食べていたり、持ってきたコーヒーを飲んでいたりする生徒がたくさんいました。日本では授業中にお菓子を食することや、コーヒーを飲むことはありえないので日本との文化の違いを感じました。英語の授業は日本でいう総合みだいな授業でした。平等という題材についてみんなで話し合っていました。日本語では北海道のアイヌの言葉やハワイ語や外国のネットスラングについてでした。放課後は海に行きました。海水はとてもきれいで水中眼鏡をつけなくても水中がよく見えるほどでした。泳ぎ回ったり近くを探検したりビーチバレーをしたりした後はきれいな夕日を眺めました。海を満喫した後は家でロコモ

コ丼を食べました。それはとてもおいしくてすぐに完食してしまうほどでした。

～6日目～

朝食にマクドナルドに行った後にハワイの歴史見学に行きました。カメハメハ大王の像や、その人が作り上げた国の歴史、宮殿などを見学しました。見学が終わった後は学校で最後のレクを楽しみました。4日間学校に行った私にはたくさんの友達ことができました。その友達とお別れの挨拶を最後のホームルームでしました。

～7日目～

その日はホストファミリーと一日中出かけました。最初においしいドーナツを食べて、海に行きました。そこには野生のカメが泳いでいるのを観察したり、橋から海にダイブしたりしました。端から海の高さは結構高くてかなり怖かったけど勇気を出して飛び込むときのスリルと楽しさは今でも忘れられません。お昼にはガーリックシュリンプと自分の好みに作ることができる鍋を食べました。自分は辛めのスープにヌードルやチャーシューなどを入れてラーメンに似たものを作りました。ですが、スープの中にレモンやハバネロなどが入っていてラーメンとはまた違った風味を楽しめました。帰ってきた後はホストファミリーと時間を過ごしました。夜には留学生とそれぞれのホストファミリーが集まってパーティーをしました。おいしいサラダやパスタを食べている中、留学生がそれぞれ感謝の意を述べてホームステイの終わりが近いことを実感しました。帰ってきた後は一緒にゲームをしたり楽しくおしゃべりしたりしました。



～8日目～

家を出る前にたくさんお土産をもらいました。空港に行く道のりで私は帰りたくない気持ちでいっぱいでした。空港に着くと他の留学生も泣いていました。ホストファミリーも目に涙を浮かべていたので私も思わず泣いてしまいました。必ずまた会いに行くと約束をして別れの挨拶を告げました。

【最後に】

私があこがれていたハワイは私の想像以上に楽しい場所でした。美しい景色、おいしい食べ物、興味深い文化、明るくて、どんな人にも優しくフレンドリーな人々などすべて一生忘れられない宝物です。また今回の留学でうまく英語を伝えられないもどかしさともっとたくさんしゃべりたい気持ちが、自分の英語に対するモチベーションをさらに上げました。近い将来、もっと英会話能力を上げてホストファミリーと何不自由なく話せたらいいなと思います。

別れじゃない私たちの始まり

北海道静内高等学校 2年

私は、北海道ハワイ州高校生交換留学というプログラムに参加しました。

プログラムでは、ホームステイと同時にオアフ島に所属するワイパフ高校へ通学します。ワイパフ高校は、全校生徒数約2700名、社員数約200名の大規模な学校で、日本の様々な地域や学校と交流を行っている国際交流活動が非常に盛んな学校です。

私がこのプログラムに応募した動機は、中学入学と同時にアメリカケンタッキー州へのホームステイを経験し、この経験を機に英語への好奇心、学力向上に繋がったからです。これを背景に自分の英語スキルの低さを実感しました。

私は、このプログラムに参加し、語学力、コミュニケーションスキルの向上はもちろん、価値観の変化、視野の広がり、様々な角度から物事を考えることの重要性を学びました。

一日目

新千歳空港→羽田空港→ダニエル・K・イノウエ空港と約7時間のフライトでハワイに到着しました。入国審査などが終わりホストファミリーと合流をしました。事前に連絡を取っていたこともあり会話が弾んだのを覚えています。ホームステイ先に行きみんなで昼食のパンケーキを食べてモールに行きました。ショッピングをしたりM3GANという映画を見たりしました。全席リクライニングチェアで快適でした。その後スーパーに行きました。サイズの大きいものばかりでコストコのような感じでした。夕食はメインステーキでした。みんなで準備しみんなで片付けるととてもいい習慣だと思いました。

二日目

バスで学校へ向かいました。静かな日本のバスと比べて爆音が流れているバスの中にとっても驚きました。この日はワイパフ高校でも人気のあるハイキングに行きます。高い山を登り頂上からの景色は海一面でとても綺麗でした。昼食はkokomarinacenterでハンバーガーを食べました。ついたくさん写真を撮りたくなるようなものばかりでした。帰宅後私が一番楽しみにしていたディズニーリゾートコレナビーチに行きました。

目の前には映画の中に入り込んだような絶景が広がっていました。ビーチの中では足元にウミガメがいたりとても刺激的な場でした。夕食はタイフードでした。



帰りの車では私が家族とハワイに来た時には家に招いてくれるなどお酒を飲めるようになったらパーティーをしようと話が尽きませんでした。

三日目

一時間目はワイパフ高校の生徒証を撮りに行きました。

二時間目はプレゼンテーション発表です。会場に着き発表の時間に近づくとつれてたくさんの方が会場に入ってきます。緊張していました。しかし私の番になりアロハ~というとおアロハ~と返してくれました。本当にみんな優しくてyesとnoがはっきりしているところ、リアクションが大きいところ海外の良さだと思います。プレゼンテーション後たくさんの方が写真を撮ろう！インスタ交換しよう！と話しかけてくれました。名前も覚えてくれて学校では会いに来てくれたり廊下ですれ違うと声をかけてくれたりととても嬉しかったです。



帰宅後ホストのミカと約二時間話し、お互い驚くことがたくさんありました。一番は日本の学校の校則についてです。ワイパフ高校は私服、ピアス、髪型、メイク、スマホ、刺青など自由ですが私の高校は一列になって行う頭髪検査、決まりがたくさんあります。ワイパフ高校にはたくさんの魅力があります。夕食はフィリピン料理でした。夕食後みんなでトランプゲームをしました。

四日目

一時間目はウクレレの授業でした。隣の子がやさしく教えてくださいました。二時間目は化学でした。公式がわからず苦戦しました。しかし先生、生徒に積極的に話しかけ仲を深めることができました。三時間目は料理の授業です。胡麻団風、おもち、クッキーにデザインをしました。料理科を取っている生徒は料理を勉強しレストランを開くために日本を訪れてたくさんのご飯を食べて研究すると言っていました。素敵な取り組みです。アウトレットに行きました。韓国のチーズはとぐ、ディッピングドッツを食べました。夕食は genkizushi に行きました。家に帰ってピアノでアナ雪を引くと歌とダンスで盛り上がったのを覚えています。

五日目

一時間目は健康です。教材を使って取り組みます。二時間目はマルチメディアです。一眼カメラを使い自然を撮影しました。私の高校にはない科目で興味深かったです。

午後の授業はホームルームです。自分の取りたい教科に沿って時間割を組む制度です。次の授業は英語でした。受けていて楽しい授業でした。

放課後は、友達の家遊びに行き、チェスをしました。夕食は中国料理でした。チキンが美味しかったです。

六日目

一時間目は美術です。自画像を描きました。みんな絵のように上手でした。その後、ホノルル市内施設を見学しました。カメハメ大王を見て教育局を訪問しました。貴重な体験ばかりでした。

学校に帰ります。本当に最後の授業です。日本語でした。外で貨物列車をしたりあっちむいてほいをしたりしました。たくさん素から笑いました。放課後はみんなでたくさんの思い出を作りました。

夜はワイキキに行きました。大都会でした。路上では、アクロバット、ダンスパフォーマンス。メインデパートには、100店舗のショップとレストランがあり、照明に本物の炎を使っていたり、AI、メイク体験コーナーはいろんな店舗がありました。

夕食はフードコートでピザを食べました。ですが、わたしの知っているフードコートではありませんでした。アーティストが歌をうたっていたりモニターでバスケットを見ることができたりbgmに合わせてダンスしている人がいる夢のような空間でした。帰りの車では自然と涙が流れてきました。

七日目

最終日です。日本から持ってきた材料でうどんを作りました。ホストは美味しいと喜んで食べてくれました。その後絵のようにきれいな景色を見ることができる山に行きました。

実際に戦争があった山でした。次に神社に行きました。除夜の鐘を鳴らすことができました。神社の中には大きな大仏があり、大仏の周りには気を休めている人がいました。車の中ではいつも何気のない会話が盛り上がり車に乗るのを楽しみにしていた自分がいました。

18:00から晩餐会がありました。晩餐会では感謝の気持ちをスピーチしました。涙が止まらなかったです。晩餐会中にsnowを使って可愛いエフェクト、顔交換をしてたくさん笑いました。晩餐会後外でいろんな角度からいろんなポーズで写真を撮りました。みんなといると本当に素でいられました。お開きですという声が聞こえました。本当に悲しかったです。

私はパッキングをしたくありませんでした。なぜなら楽しかった思い出がよみがえると同時に日本に帰るという実感を得たくなかったからです。しかし、ホストのミカと母が「一人じゃ寂しいでしょ。」とパッキングを手伝ってくれました。おかげで楽しく準備を終えることができました。その後、私が毎日学校に持って行っていた水筒にマーカーでホストファミリーがメッセージを書いてくれました。宝物です。

八日目

私は気が付きました。正夢になっていたのです。来るときも同じ道を歩いてきたのですが最初は気が付きませんでした。



ガラス張りの空港につながる道から見えるハワイならではの木、きれいな広い空、私は全く同じ状況を何度も夢で見ていたのです。見覚えのない人たちと歩いていました。それは、ホストファミリーだったのです。不思議な気持ちでした。ホストの父が空港で働いていたため先にキャリーケースの重量をはかってもらいました。重量オーバーでした。手持ち荷物を増やしギリギリ大丈夫でした。とうとう別れの時、お手紙と私の一番お気に入りのメイクコスメを渡しました。感謝の気持ちを伝えようとしたが声が出るほど涙があふれ出てきました。ホストは強く抱きしめてくれました。そして、「これは別れじゃない。私たちの始まりなんだよ。」と言ってくれたのです。この言葉は強く心に響きました。別れた後も私たちが見えなくなるまでずっと見守ってくれていました。何度も振り返り、何度も手を振ります。あっといふ間の七日間でした。姿が見えなくなってもしばらく涙が止まりま

せんでした。全ての審査が終わった後も留学生みんなニヤニヤしながら留学中楽しかったこと、行った場所、美味しかった食べ物などみんな楽しそうに話をしていました。

帰りの飛行機は、約9時間と長いフライトですが、とても短く感じました。

ここで、羽田空港から新千歳空港までの飛行機が欠航するかもしれないという説明を受けました。私は嬉しい気持ちでした。みんなも欠航して欲しいと言っていました。ですが、飛行機は無事飛び新千歳空港に着きました。留学生みんなで写真を撮りました。出発時の写真はみんな一定の距離で気まずい感じでしたが、最後の写真はみんなで肩を組み、みんな最高の笑顔でした。大人になったら絶対に集まろうねと話しました。

最後には円陣を組みました。帰りの車では話したいことが山ほどありましたが、思い出すと涙があふれ出てきます。帰宅後しばらくは、キャリーケースを開けることができませんでした。開けた時には懐かしいにおいがしました。戻りたい戻れない7日間でした。

この7日間は私の人生を変えた7日間でした。たくさんの素敵な出会いにより、私の考えは180度変わりました。グローバルに活躍する航空業界で働くという夢を叶えるためにも、たくさん様々なことにチャレンジし続けます。

ハワイ留学を終えて

北海道旭川西高等学校 2年

〇ワイパフ高校

やはり最初に驚いたのは“圧倒的自由”というところです。

ホストファミリーに案内してもらいながら校庭を歩いていると、通路で本を広げ学習、座り込んで駄弁る、カバンにスピーカーを入れて歩き回って爆音で音楽を流すなど、約2000人が在籍しているというこの学校のスケールの大きさと、爽快なまでの自由さを目にすることができました。こんなにも縛りがなく個人の考えで行動することができて

いる空間は初めてで、それが存在し得るのは、みんなが多く余りある個性を持っていて、生まれた地域や文化、感じ方考え方の違い、それをごく自然に尊重しあうことができているからなのかなと思いました。



〇授業について

日本語のクラスでは日本語英語どちらも駆使しながら知見を深め合いました。年齢でなくテストなどに応じたレベルのクラスがあるのですが、どのクラスも皆が和気藹々と活発に発言できていて、その雰囲気の良さに驚きました。

国語のクラスでは、スクリーンに表示された一枚の写真について See-think-wonder の三つに分類し、日本では考えられない、みんなが発言し、自身の意見を言うという活発な協議が行なわれました。その後私たちは、写真に登場していた出稼ぎ労働者になったつもりで、10個だけアイテムを選択し、くじで出たお題に対処していくことで、ゲーム感覚でその時代の人々の状況や考え方を想像することができました。



また、アイテムを決める際に皆自分の意見を持っているため衝突するのはと危惧しましたが、それがより理論的に話し合いが進むきっかけになっていることに気づきました。そして、どの教室にもパソコンが置いてあり、移動してすぐにログインして授業を始めるという形式がスマートでかっこいいと感じました。

授業全体を通して、日本は数学や物理などのいわゆるテストや受験などで使う勉強が発達しており、アメリカでは協議や提案、プレゼンテーションなど、実際に将来使うようなものが発達していると感じました。

○日常生活

最初私はハワイについてすごく暑いというイメージを持っていたので、空港に着いたときに驚きました。寒かったです。ハワイではお店や学校の中はかなり強い冷房が効いているため、極度に寒暖差が激しいのです。家の中も例外ではなく、数日間はウルトラライトダウンを着て凍えていました。



そうした日々が何日か続くと、ある日何も感じなくなりました。そこからは、かき氷を食べられるようになり、食事がより美味しいと感じるようになり、ホストファミリー同士の砕けた会話にも混ざっていけるようになりました。

やはり何事も慣れることが一番大切なのだと感じました。

家での生活で一番堪えたのは、洗濯の頻度の少なさです。アメリカでは洗濯をあまりしないとは聞いてはいましたが、本当に週に一回なのだと驚きました。日本で毎日洗っていた習慣があるため、一回使ったバスタオルやフェイスタオルを使うことに抵抗を感じ、なかなか馴染むことができませんでした。



ハワイの食事はフルーツやスイーツなどが特に美味しかったです。冷蔵庫の中にボウルいっぱいのおいしいブドウとパイナップルがあり、毎日たくさん食べさせてもらいました。手作りの料理の中で一番美味しかったのは、チェリーです。ハヤシライスのような味のするルーがご飯にかかっている料理で、すごく美味しかったです。他の留学生と一番美味しかったもののお話をした時にその写真を見せ合ったのですが、私の言うチェリーと、他の子が言うチリライスが同じものだと気づきました。日本でいうカレーライスをカレーという感じなのでしょうか。些細なことでも共通点を見つけられたようで嬉しかったです。

○ホストファミリー

外国語を用いての生活はしたことがなかったので、文化の違いや生活習慣の違いなどによって何かしらのトラブルがあるのではと身構えていましたが、それは杞憂でした。文化の違いは多少なりとも感じたものの、いつも近くでホストファミリーの方々優しく寄り添ってくれたからです。趣味や母国での生活、日常のたわいない話で盛り上がり大きな声で笑いあったり、最初吠えられまくった犬のヒナちゃんとおもちゃで遊んだり、会話でよく使う言葉を知り、実践したり、海でふざけあってチキンをしたり。たったの数日間だということが信じられませんでした。



ほかの留学生も言っていましたが、本当にもうそこで生まれた気さえしていました。



○すべてを通して

今回の留学を通して、様々な人の考え方を知り、新しいことに挑戦していく大切さや、自分から動く大切さを改めて学んだことで、自分の人生は自分で作るものなのだと強く実感することができました。

本当に、心から成長するきっかけになりました！



ハワイで学んだ～アロハスピリッツ～

北海道釧路湖陵高等学校 1年

1.ホストファミリー

空港から出て、すぐに私を出迎えてくれたのがホストファミリーでした。「レイ」という花の首飾りや、「Welcome」と書かれたボードを用意してくれました。

ホストシスターは日本語が上手で、高校の日本語の授業のほかに、大学の授業もリモートで受けていました。

たくさんの親戚の方々にもお世話になりました。毎週末に親戚で集まってご飯を食べるのが決まりだそうです。



2.ワイパフ高校



さまざまな民族の生徒が通っていました。特にフィリピン系の人々が多く、かつてサトウキビのプランテーションに従事していたようです。日系も多く、学校の生徒数は2700人を超えます。

校舎も広く、吹きさらしの廊下からは真珠湾を見ることが出来ます。生徒が多すぎて、中庭でしか全校生徒は集まらないそうです。現在は隣に新しい校舎を建設中です。

学べる言語も多様です。第二言語の授業は、フィリピン語、中国語、スペイン語、日本語、ハワイ語など多くの選択肢があります。

3.学校生活

学校に入るには、スクールIDという日本の学生証のようなものが必要で、首から下げられるようになっています。

基本的に先生は教室から移動せず、生徒が各々のクラスに毎時間移動します。同じクラスにさまざまな年齢の生徒がいて、個人のレベルや興味関心に合わせた授業を展開しているからです。



昼食は基本的に持参しますが、校内にはカフェテリアもあります。家庭が忙しく昼食を持参することが難しい生徒もいるためだそうです。私が一度利用した日のメインはピザでした。

放課後はクラブ活動も体験しました。ホストシスターは演劇部の所属なので、そこに参加しました。歌を歌うのが好きなので、Singing Sectionに参加し、英語の歌をお互いに披露しました。

4.授業内容

①ウクレレ

音楽室に移動し、ハワイの伝統的な弦楽器であるウクレレを弾く体験をしました。いくつかのコードを習い、「Somewhere Over The Rainbow」という曲を演奏しました。



②料理

中国の旧正月の時期だったので、ガオという甘い中国のお餅と、あんこピーナッツ味の2種類の胡麻団子を作りました。その後、ひまわりのアイシングクッキーも作りました。

日本料理を学ぶクラスの方は、日本を実際に訪れて日本料理を食べに行く予定だそうです。

③数学

数Ⅱの内容で、関数のグラフを求める授業でした。驚いたのが、授業中に電卓を利用していたことです。使っていた関数電卓は、式を入力すればグラフも表示できるものでした。

④日本語



複数回にわたり参加させていただきました。日本の英語の授業のように、グループワークで自己紹介をしたのちに質問をしたりしました。生徒たちの前で、名前、年齢、趣味について自己紹介しました。

最終日のクラスでは、じゃんけんゲームやあっち向いてホイなどのミニゲームを日本語で遊びました。あっち向いてホイに似た、「イッシュ」という遊びも紹介してもらい、とても楽しめました。

⑤HR(生徒会)

ホストシスターが生徒会の所属だったので、参加しました。生徒会の方々は私のためにミニゲームを開いてくださり、リボンのレイやお菓子をいただきました。他にも、化学、英語、美術の授業を体験しました。

5.歴史・文化等の学び

初日のハイキングでは綺麗な海を一望でき、ハワイの自然の豊かさに触れました。

ホノルルでの社会科見学では、カメハメハ大王の像やイオラニ宮殿を見学し、ハワイの歴史のビデオを視聴しました。

また、ホストファミリーとビショップ・ミュージアムに行きました。ハワイの王朝の歴史や伝統楽器の演奏、服を着るなどの体験ができました。また、火山の仕組みやハワイの植生、環境問題について知ることもできました。



さらにフォスター植物園を訪れ、ココナツの木などのほか、多種多様な植物に出会いました。また園内に竹が植えてあり、大仏が屋外に設置されているほか、真珠湾攻撃による日本語学校の被害について

の石碑もありました。

そして、太陽寺という日本人の方が管理されているお寺にもいき、ハワイのお守りを購入しました。

6.ポップカルチャー、ショッピング

ショッピングセンターの中でも特に Swap Meet は、地元の人に人気で、安くお土産が買えました。

また、ドンキホーテがあったり、寿司レストランやスパむすびという、スパムのおにぎりが売っていたりなど、日本の雰囲気や米食文化も感じました。

主食に米も多く食べるようで、ポキのどんぶりやロコモコ、チリライス(カレーやハヤシライスに似ていてスパイシーな料理)などを食べました。

アニメグッズも多く売られていて、ハワイでも日本のアニメは人気だそうです。

ビーチは2回別の場所を訪れ、1回目は泳ぎ、2回目は波が高くサーファー向けの場所だったので、貝殻を拾って楽しみました。

7.まとめ ～ハワイで学んだ「アロハスピリッツ」～



私がこの留学で学んだ一番大切なことは、「お互いの違いを受け入れること」と、「人を愛すること」です。ハワイでは、多様な民族が住んでいることもあり、他者との文化の違いに寛容です。自然を大切にしているし、人を、人との関わりを大切にしています。親戚や知り合いなど、人とのコミュニケーションが日本に比べて活発だと感じたし、色々な人が学校などの場所で声をかけてくれました。

そして、特にホストファミリーは、私の興味や要望を聞いてくれて、まるで家族のようにとても親切に接してくれました。たった1週間でしたが、涙して別れを惜しむほど親密になりました。

他人との違いを気にしたり、文化の違いをコミュニケーションの壁に感じてしまったりすることもあります。でも、他人と違うことは当たり前ですし、それを受け入れてこそ、他者や異文化を理解する第一歩になると思います。



2 教員編

北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業 研修報告書（引率教員）

北海道登別明日中等教育学校 教諭

(1) 生徒について気付いたこと

事業実施前には現地での交流活動を含むプログラムに期待を寄せる一方、出国手続き等では「スムーズにできるかな」と不安を感じていた生徒たちも、スケジュールが進むにつれてリラックスしている様子を見せていたと思います。「英語を話すこと」への不安や心配も最初はあったようですが、「自分の英語が通じる」ことへの安心感を得てからは、パティ生徒はもちろん日本語クラスの生徒たちとも積極的に話していく姿も多く見られるようになりました。スライドを用いた自己紹介では各々の趣味やそれぞれの学校の特長、北海道の紹介も入れることでハワイ州の生徒たちを惹きつけていて、アニメや漫画などでハワイ州の生徒たちからも知っているというようになりアクションを受けてからは彼らの緊張が一気にほぐれていったような感じがありました。何か共通したものがあることへの安心感は高校生という年代では交流を進めるうえでも重要なことかもしれないと感じました。プログラムが進むにつれて、発話量が大きく増えたことは明らかですが、物怖じせず積極的にコミュニケーションを取ろうとする意識や姿勢も十分見られました。英語はもちろん、ジェスチャーなどで自分の伝えたいことが伝わると同時に得られる達成感が、もっとコミュニケーションをとりたいという彼らの気持ちをさらに後押ししてくれるものになったと思います。このプログラムを通して参加する生徒たちが「国を越えて理解し合う」という国際理解教育のねらいを実現する姿を目の当たりにしたと感じました。

(2) 引率教員・英語科教員として学んだこと

国際理解教育や異文化理解教育、グローバル教育では「英語で何かを学ぶ」ことや「自国と比較して、自国の良さや自国の改善点のヒントを探っていく」ことが大切だと思っています。そのような点から考えると、ハワイは日本人にとってよく知られている場所であり、抱えているイメージと同様の部分や違っている部分を比較しやすいと思います。あわせて本道とハワイ州がともに観光業に力を入れている地域であることや抱えている問題なども共通する部分が見られることから探究的な視点で交流を深めていくには良い場所だと思いました。ワイパフ高校の日本語クラスの生徒との交流も充実したものになり、双方にとって非常に有意義なプログラムであると感じました。

個人的にはワイパフ高校の訪問だけでなく、ハワイ語をメインとして授業を行っているアヌエヌ工高校を訪問することができたことやハワイ州の教育局長や現地の教育委員会の方々とお話することができたことでこのプログラムの役割の重要性をあらためて認識できたと感じています。アヌエヌ工高校では高校独自の魅力をどのようにしてアピールして浸透させているのかや、各学校の多様性を尊重していくことが大切であることを学びました。

また、現地の教育委員会の方との話の中で、第二言語習得における実践的な場面、取組の状況、目的の設定の必要性やトライアンドエラーを受容する教員及び学校側の姿勢など日本および北海道でもすぐに実践していくことができるような考えや価値観について交流することができたことが非常に貴重な時間となりました。実際、ワイパフ高校での生徒たちとのやりとりや発問を通して論理的な思考を促すことを重視した授業の進め方は、現在の学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」ともつながっており、教員がファシリテーターとして生徒の意見を引き出していく様子は、自身の指導観とも重なるところが大いにあり、その考え方や方向性が間違っていないことを確認することができただけでなく、指導方法にさらに磨きをかけていきたいという動機付けにもなりました。

(3) 本事業に係る課題や感想

今回引率教員として事業に参加させていただき、あらためて本事業を生徒に強く勧めたいと感じました。様々な場面で見られる文化の違いや気候の違いなど、多くのことを体験できました。これは異文化理解及びグローバル教育の土台となるものであり、このような現地でのフィールドワークがあるからこそ実感できるものだと思います。交流の期間をさらに1~2週間ほど長くすることができるのであれば、交流およびプログラム自体の充実はもちろん、現地でさらに多くの違いに気づくことができると思いますし、その気づきが参加生徒たちの知的好奇心を刺激して、文化の違いを受け入れる理解と、その違いから自分たちの住んでいる地域及び社会の良さに気づくことにつながります。

また、ワイパフ高校の日本語クラスでは授業を通じて交流を継続させていきたいという思いがあるようなので、オンラインではあっても、同じ外国語を学ぶ者同士の交流をすることはお互いに刺激を受ける効果があると思います。このような交流を通して、北海道の生徒たちに「英語を学習すること」は目的ではなく、自分のやりたいことを実現するための手段であると感じてもらえることができればと思います。

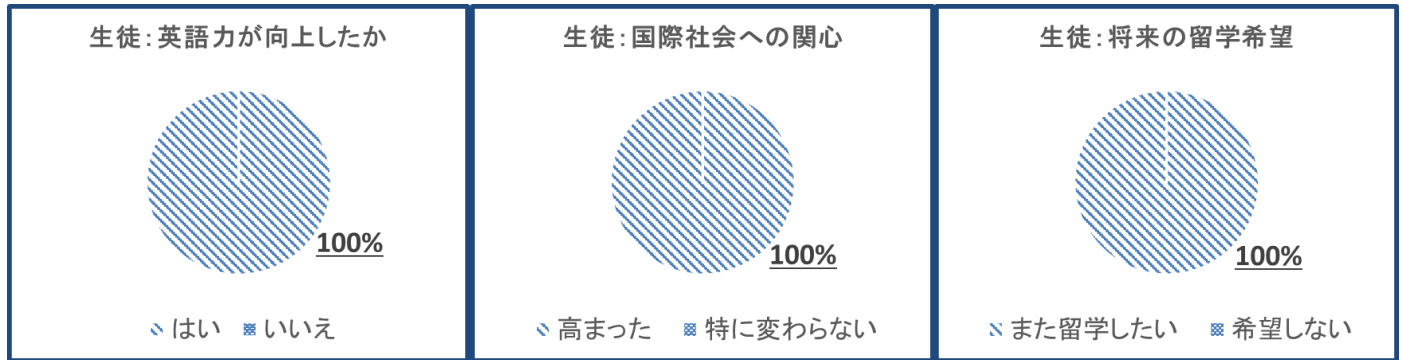
今事業の運営をはじめ渡航に向けた手続き等でお世話になった教育局の方々、現地で引率団として北海道の留学生をサポートしてくださった今村さん、本事業への参加の機会をくださった校長先生や副校長先生、教頭先生、教職員や事務職員の方々、その他本事業に関わってくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。非常に有意義な経験をすることができました。ありがとうございます。

令和4年度(2022年度)北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業

—アンケート結果から見える事業効果—

■ 参加生徒へのアンケート(5名中)

参加生徒全員が、「英語力の向上」、「国際社会への関心の高まり」を実感し、「将来また留学したい」と回答。



● 感想 ●

- ・手厚いサポートにより、滞在中も安心して過ごすことが出来た。英語面だけでなく、親と離れて海外で過ごしたり、目の前で起きた問題を自分で解決していくことで精神面でも強くなれたと思う。一生の思い出になり、勇気を出して応募して本当に良かったと思う。
- ・留学後、駅などで外国の人に道案内を頼まれても臆せずに説明できるようになった。日本にはない美味しい食べ物、美しい風景や学校生活が魅力的だと感じた。
- ・リスニング力が向上した。日本とは、環境が全然違い、良い意味で周りを気にせず生活出来るところが魅力的だと感じた。
- ・ハワイには様々な人種や思考の人が生活しているので、個人主義的な雰囲気があり、個人の意見や考えを尊重し合っているところが魅力的だと感じた。留学後はSNSなどで、翻訳を使用しないメッセージのやり取りができるようになった。
- ・物怖じせずに、とりあえず何か話してみる精神が大事だと感じた。また、留学先の日本語の授業では、日本語を一生懸命話しているのを聞き、自分も英語の学習を頑張ろうと思えた。より異文化を理解する力がついたと思う。この経験を、今後の大学進学や就職に繋げたいと思う。

■ 引率教員の感想

- ・受入校の教員との意見交換は、異文化理解や今後の英語教育の指導観にも大きく影響を与えるものであり、教科指導の方法においての大きなヒントを得ることができた。
- ・留学先の学校の日本語クラスの生徒との交流も充実したものになり、北海道の生徒だけでなく、双方にとって非常に有意義なプログラムであると感じた。
- ・受入校だけでなく、現地の学校視察や教育行政機関との意見交換がとても有意義であった。日本でもすぐ実践していくことができるような考えや価値観を交流することができたことが非常に貴重な時間となった。このプログラムに参加したからこそその学びであったと感じる。
- ・ハワイは日本人にとってよく知られている場所であり、「自国と比較して、自国の良さや自国の改善点のヒントを探っていく」ことで、抱えているイメージと同様の部分や違っている部分を比較しやすいため、国際理解や異文化理解、グローバル教育を深めていくには良い場所だと思った。